

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

(1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。

(2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に生徒の伸びを見ることができる調査となっております。

平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。

(3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

(4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、数学、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校調査は、国語、数学、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 ・理科については1人1台端末を使って問題配付され、解答をする。 	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞

は全国平均正答率を上回ったもの



国語									
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に關する事項	2	48.3	48.5	48.1	話すこと・聞くこと	4	57.6	54.3	53.2
情報の扱い方に關する事項	0				書くこと	5	59.9	53.7	52.8
我が国の言語文化に關する事項	0				読むこと	3	63.2	63.6	62.3

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	43.9	45.0	43.5
図形	4	50.3	48.7	46.5
関数	3	50.5	48.8	48.2
データの活用	3	65.3	60.2	58.6

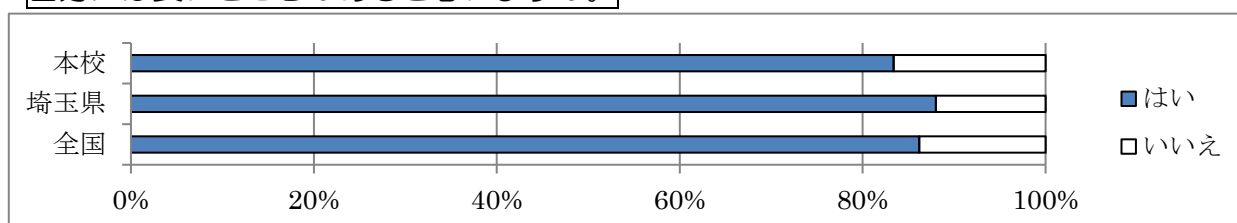
理科（公開されている問題のみについて）				
大問題	設問数	本校平均正答数	県平均正答数	全国平均正答数
【1】	6	2.9	2.9	2.9
【2】【9】	4		2.0	2.0
【5】【8】	4	1.9	1.9	1.9
【3】【6】	4		2.3	2.3
【4】【7】	4		2.3	2.3

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

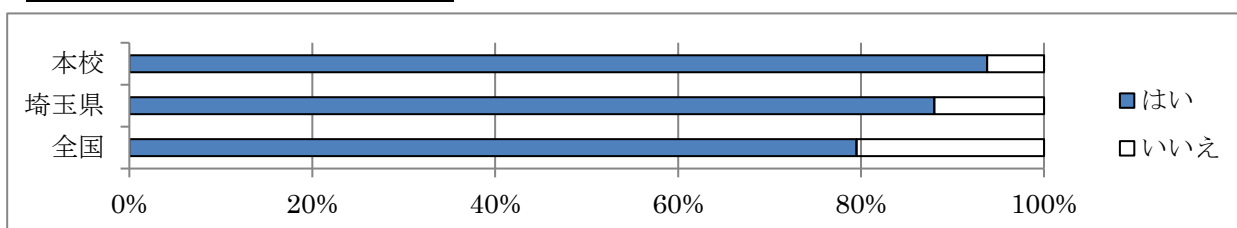
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

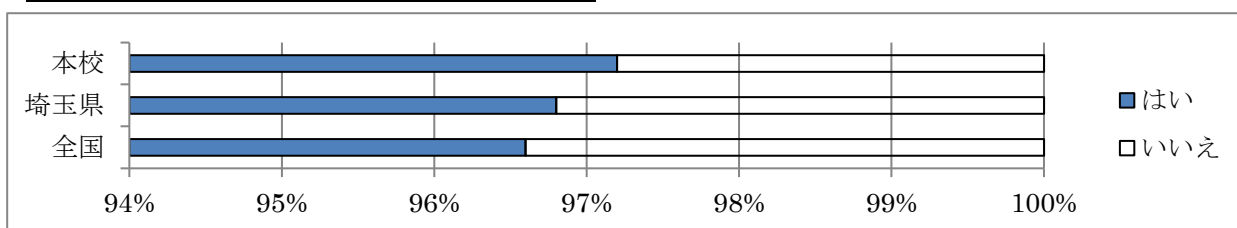
自分には良いところがあると思いますか。



総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【分析の概要】

正答率をみると、本校 58.0%、埼玉県 55.0%、全国 54.3%となっており、県・全国平均を3pt 上回っている。

各問題をみると、ほとんどの問題で県・全国の平均正答率を上回っているものの、自分の考えを記述する問題で低い数値となった。しかし、無解答率が低いことから、問題に取り組もうとする姿勢、難しい問題にあきらめずに取り組む姿勢があることがうかがえる。

【問題】

《よくできた問題》

4二 手紙の下書きを見直し、修正したほうがよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く

(正答率) 本校 45.1%、埼玉県 32.8%、全国 30.1%

(分 析) 10pt 以上平均正答率が高い。「概要」で述べたように、自分の考えを記述する問題で正答率は5割を下回ったが、無解答率は全国より10pt 程度低い。授業内で文章を書かせる、推敲させるという基本を定着させる取組が好結果につながったと考えられる。

《できなかった問題》

3三 「しきりと」の意味として適切なものを選択する

(正答率) 本校 59.7%、埼玉県 60.6%、全国 61.0%

(分 析) やや平均正答率が低い。さらに語彙力を向上させるために、授業の中でも意味調べの取組や、文章の中で意味を推察する取組を行っていく。

<数 学>

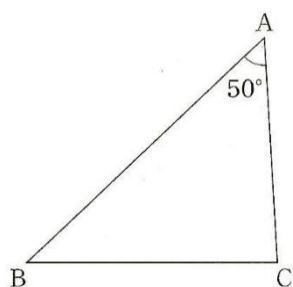
【分析の概要】

平均正答率が「図形」「関数」「データの活用」の領域で、全国・埼玉県の前正答率の両方を超えたが、「数と式」の領域では、埼玉県の前正答率を下回った。

《できなかった問題》

問題3

下の図の△ABC で、頂点 A における外角の大きさを求めなさい。



<正答率(%)>

全国 58.1
埼玉県 58.5
本校 47.9

<無回答率(%)>

全国 2.0
埼玉県 1.7
本校 2.8

全国・埼玉県の前正答率を大きく下回っており、三角形の外角について、正しい位置の理解をできていなかったと考えられる。

誤答のパターンを分析すると、外角を、 360° - 内角と捉えてしまっている生徒が多いと考えられる。

《よくできた問題》

問題9 (1)

四角形 AECF が平行四辺形であることから、新たに分かることがあります。それを下のアからエまでの中から 1 つ選びなさい。

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ア | BE=DF | イ | AF=EC |
| ウ | AE=FC | エ | AB=DC |

<正答率(%)>

全国 58.5
埼玉県 60.9
本校 68.1

<無回答率(%)>

全国 1.1
埼玉県 1.0
本校 1.4

全国・埼玉県の前正答率を大きく上回っており、平行四辺形の性質について、正しく理解できている生徒が多いと考えられる。

<理 科>

【分析の概要】

全体では全国平均と比較し、やや低い値となった。生徒の割合としては IRT バンド3の生徒は県・全国平均と比較して多く、IRT バンド4の生徒の割合が少ない。全体正答率の高い問題の前正答率が非常に高くなったのは、小テストにより基礎基本が定着していると考ええる。全体正答率の低い問題での前正答率が全体に対して大きく低くなったのは、思考力を問われる内容であり、思考力の育成が課題であると考ええる。

【問題 (例)】(公開されている問題について)

《よくできた問題》

1 (5) 塩素の元素記号を答えなさい。

(正答率) 本校 51.0%、埼玉県 45.9%、全国 44.9%

- ・単語テストや小テストを繰り返し行うことで知識が定着していると考ええる。

《できなかった問題》

1 (4) 生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択しなさい。

(正答率) 本校 19.3%、埼玉県 29.4%、全国 29.7%

- ・出題されたのは思考力を問われるないようであり、知識に関する取り組みだけではなく、思考力の育成が課題と考える。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年5月8日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑＝80%以上、↑↑↑↑＝70%以上80%未満、↑↑↑＝60%以上70%未満、↑↑＝50%以上60%未満、↑＝50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	66.8	65.3	13	64.5	60.4	11	59.0	55.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	69.3	67.4	7	43.0	43.8	8	64.9	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	4	59.9	59.3	4	73.3	65.0	4	55.8	53.0
読むこと	8	58.0	56.8	7	53.6	48.5	8	56.7	54.7
※学力の伸びた児童の割合		81.2	↑↑↑↑↑		59.2	↑↑		81.4	↑↑↑↑

数学	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	10	54.5	58.2	11	58.5	56.3	11	59.4	60.0
図形	10	51.7	52.0	8	44.4	42.2	8	51.4	49.7
1年変化と関係2、3年関数	8	47.9	49.4	7	57.9	54.0	8	52.1	52.8
データの活用	5	45.7	43.9	7	56.0	52.1	6	65.9	64.9
※学力の伸びた児童の割合		56.4	↑↑↑↑		80.0	↑↑↑↑↑		62.9	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	79.9	73.6	10	61.0	55.8
読むこと	15	62.2	59.4	19	61.4	57.2
話すこと	2	25.4	18.5	2	16.0	12.5
書くこと	9	60.4	55.7	5	41.0	37.0
※学力の伸びた生徒の割合					82.1	↑↑↑↑↑

<生徒への質問紙調査>（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上

(%)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 95.5	96.6 97.7	96.1 96.6
	② 授業の開始時刻	96.6 95.5	97.4 97.7	97.7 97.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.6 83.9	91.6 93.8	93.1 93.2
	④ 整理整頓	72.6 64.5	74.8 77.7	74.9 74.8
	3 進んで挨拶や返事をする			
	⑤ あいさつ	88.1 82.0	88.1 80.8	87.5 89.1
○礼儀正しく人と接することができる	⑥ 返事	94.8 92.3	94.9 95.4	95.3 94.5
	4 ていねいな言葉づかいを身につける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.7 91.0	92.8 96.9	93.9 93.8
	⑧ やさしい言葉づかい	89.5 81.9	90.9 95.4	90.8 87.0
○約束やきまりを守ることができる	5 学習の決まりを守る			
	⑨ 学習準備	92.8 89.0	93.6 93.8	94.3 96.6
	⑩ 話を聞き発表する	83.4 81.3	83.3 90.8	85.4 83.6
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.0 89.1	93.1 98.5	94.8 93.9
	⑫ 掃除・美化活動	87.7 85.1	88.0 90.0	89.2 86.4

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 自律的学習の充実

- (1) 課題解決のために、一人ひとりに合った学び方を選択する機会を確保します。
- (2) 個々の生徒がそれぞれ知りたいことを解決する時間を確保します。
- (3) 授業の中で生徒がお互いに知りたいことを解決する協働の時間を確保します。

☆2 言語活動の充実

- (1) ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態により意見交流する機会を作ります。

☆3 振り返り活動の充実

- (1) 目標やゴールを共有し、学び方を振り返ります。
- (2) 振り返り活動の中で、自分自身の成長を可視化し、価値を認める機会を作ります。
- (3) 自分で決めた小さな目標を達成し、それを振り返りで確認するサイクルの繰り返しが、「自分ならできる」という自信（自己効力感）を支えます。

☆4 知識・技能の定着を目指した学習の充実

- (1) 教科書で学んだ内容を別の場面でも活用する機会を充実させます。
- (2) 学んだことを何度もくり返し活用する場面を設定します。

☆5 アンケート分析の充実

- (1) 定期的に授業アンケート実施し、実態を把握します。
- (2) アンケートの分析結果を授業改善に活かします。

■6 課題解決学習の充実

- (1) グループによる課題解決学習を取り入れ、問題発見、課題解決の機会を充実させます。

■7 ICT機器の活用

- (1) 学習意欲を高め、学び合う態度の育成のため、ICT端末や電子黒板などICT機器を活用した授業など、探究心を湧き立たせるような教材をロリ入れ、指導を行っています。
- (2) ICT機器を活用してグループまたはクラスとの充実した意見交換をする機会を確保します。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の充実

- (1) デジタルドリルを使用した家庭学習を推奨しています。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

※ 桶川市立桶川東中学校 学力向上プラン

令和7年度



改善の観点	I 指導内容・指導方法の工夫	II 教育課程の工夫・発展	III 学習評価活動の工夫	IV 家庭・地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着を図り、それを活用する場を設定する。学習内容の系統性を図り、指導方法・形態を工夫する。	生徒の実態を把握しながら、系統的な指導計画の作成や教材の工夫・開発・準備等を行う。	生徒のよい点や達成状況を積極的評価することにより、一人一人の生徒を伸ばす。そのための評価方法や手立てを工夫する。	基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせることで、社会性の育成や自尊感情の向上を図る。
課題解決のための具体的な取組 (場と方法)	○「授業の約束」の徹底 ○生徒の実態や単元の特性に応じた指導の工夫 ・T・T指導、小集団学習 ○心理的3欲求を満たす授業の工夫 ○定期テストに対する取組 ・取組計画の作成と実践、補習、テスト直し、ノート作成等 ○言語活動の場の設定 ・スピーチの機会の設定等 ○基礎的学習内容の補充 (夏期) ○教育支援担当訪問での公開授業 ○授業研究会への積極的参加 ○授業を見合う週間の実施	○年間指導計画の実践・工夫・見直しと作成 ○教材・教具の準備・補充 ○言語活動及び体験活動の充実 ○情報の活用や情報モラルの指導の工夫	○年間指導計画に基づいた評価規程の作成・見直し ○学習目標の明確化 ○授業における生徒の自己評価や相互評価を通し、自己評価能力や自尊感情の向上 ○自己調整能力を高める評価方法の工夫 ○基礎的内容 (漢字、計算、英単語) の定着を図る小テストや定期テストの工夫	○家庭への啓発と評価の実施 ○適切な宿題の在り方 (学習量、計画・継続性) の工夫と家庭学習の習慣化 ○家庭学習ノートの習慣化 ○PTAと協力してのあいさつ運動の実施
関連する活動、行事、組織等		○校内研修 ○課題研究推進委員会 ○教育課程編成委員会	○各種調査結果 ○定期テスト結果 ○通知表	○学校・学年だより、H・P ○学校公開、授業参観、保護者会

保護者・地域の皆様へ

本校では、令和5年度から3年間『「自他を認め、思いを豊かに伝える生徒の育成」～自己肯定感を高める教育実践を通して～』を主題として、自己決定度を上げるための手立てを授業の中で意識的に実践、振り返り活動を工夫し、自己調整の機会を与えることを通して、すべての教科で自己肯定感を高める教育実践に取り組んでまいりました。今後も、すべての教育活動を通じて生徒のよさを引き出し、人間力の向上に努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、引き続き本校へのご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。